

2011年度

科目名	医療コミュニケーション演習				
担当教員	小川 雅史、廣谷 芳彦				
配当	薬学6			コード	44075
開期	前期	講時	木曜日4限	単位数	1
授業テーマ	医療現場で薬剤師に求められる高度なコミュニケーション能力の必要性、重要性を学ぶ				
目的と概要	薬剤師がその責務を果たすためには、ファーマシューティカルケアの実践と患者ケアに責任を持てる高度なコミュニケーション能力を持つことが重要性となる。実務実習で修得した患者さんとのコミュニケーション経験を活かし、医療機関で遭遇する重要性の高い具体的な課題について、講義・演習形式(討論・発表を含む)で習得する。				
成績評価法	態度の評価(30点)、レポート(40点)、平常点(30点)とする。				
テキスト	パワーポイントや配付資料を用いる。				
参考書	実践ファーマシューチカルコミュニケーション/井手口直子著・監/日経BP社 日本薬学会編スタンダード薬学シリーズ1「ヒューマンイズム・薬学入門」/有田悦子他著/東京化学同人 実践薬剤師・薬学生のための医療コミュニケーション学/緒方宏泰監/じほう				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	実務実習で修得した患者さんとのコミュニケーション経験を活かし、さらに医療現場でのコミュニケーション能力を高め、患者さんや医療スタッフから信頼されるためには普段からの自己研鑽が肝心です。				
講義計画					
補助教員:小西 廣己、西井諭司、上島 秀樹、名徳倫明、初田 泰敏、川西 園代、池田 賢二、伊賀 幾美					
回数	授業形態	授業内容	到達目標(SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	患者の気持ちを学ぶ	1. 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	A(3)	知識
			2. 患者の心理状態を把握し、配慮する。	A(3)	知識
			3. 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。	A(3)	知識
			4. 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。	A(3)	知識
2	小グループ討論(SGD)	患者本位のファーマシューティカルケアの概念を学ぶ	1. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。	D I (1)	技能・態度
3	発表・討議(小グループ)	患者本位のファーマシューティカルケアの概念について発表・討議する	1. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。	D I (1)	態度
4	小グループ討論(SGD)	薬剤師の責任と他の医療従事者との連携を学ぶ	1. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。	D I (1)	技能・態度
5	発表・討議(小グループ)	薬剤師の責任と他の医療従事者との連携について発表・討議する	1. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。	D I (1)	態度
6	小グループ討論(SGD)	処方せんの鑑査の意義とその必要性を学ぶ	1. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。	D I (2)	技能・態度
7	発表・討議(小グループ)	処方せんの鑑査の意義とその必要性を学ぶ	1. 処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。	D I (2)	技能・態度
8	SPさん参加による演習(小グループ)	服薬指導時の実践的方法と基本的姿勢をSPさんと実践する	1. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	D I (6)	知識・技能・態度
			2. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。	D I (6)	知識・技能・態度
			3. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。	D I (6)	知識・技能・態度
9	SPさん参加による演習(小グループ)	服薬指導時の実践的方法と基本的姿勢をSPさんと実践する	1. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。	D I (6)	知識・技能・態度
			2. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。	D I (6)	知識・技能・態度

			3. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。	D I (6)	知識・技能・態度
10	小グループ討論 (SGD)	服薬指導の具体例について問題点を討論する	1. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。	D I (6)	知識・技能・態度
			2. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。	D I (6)	知識・技能・態度
			3. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。	D I (6)	知識・技能・態度
11	発表・討議 (小グループ)	服薬指導の具体例について問題点を解決する方法を発表・討議する	1. 処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。	D I (6)	知識・技能・態度
			2. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。	D I (6)	知識・技能・態度
			3. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。	D I (6)	知識・技能・態度
12	小グループ討論 (SGD)	服薬指導の具体例について問題点を討論する	1. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。	D I (6)	知識・技能・態度
			2. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。	D I (6)	知識・技能・態度
			3. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。	D I (6)	知識・技能・態度
13	発表・討議 (小グループ)	服薬指導の具体例について問題点を解決する方法を発表・討議する	1. インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。	D I (6)	知識・技能・態度
			2. 適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。	D I (6)	知識・技能・態度
			3. 医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。	D I (6)	知識・技能・態度
14	発表・討議 (全体)	患者接遇時での注意点を学ぶ	1. 患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。	D I (6)	知識・技能・態度
15	講義	講演・総括・総合討論	1. 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	A(3)	態度
			2. 患者の心理状態を把握し、配慮する。	A(3)	態度
			3. 討論、自己評価、演習のまとめを行う。	A(3)	態度
授業方法					
一般目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
A(3)	講義	講義室	2(8)	プリント、スライド、DVD	90分×2
D I (1、2、3、6)	SGD	小教室・模擬薬局	2(8)	プリント	90分×5
D I (1、2、3、6)	発表・討議	小教室・模擬薬局・講義室	2(8)	プリント	90分×6
DI(6)	SP演習	小教室・模擬薬局・講義室	2(8)	プリント	90分×2